1_五十崎中の生徒による凧揚げの対抗戦。手作りの凧が一斉に舞い上がる　2_初節句神事の前に出世凧と一緒に記念撮影　3_凧踊りの独特の化粧で参加したPTAの皆さん　4_合戦で水しぶきを上げながら凧を操る参加者

令和の新しい風を受けて大空へ 400年の歴史を誇る「いかざき大凧合戦」

日本の三大凧合戦の一つに数えられる「いかざき大凧合戦」（同実行委員会主催、高倉眞一実行委員長）が5月5日、豊秋河原などで行われました。

大凧合戦は「ガガリ」という刃物を仕込んだ凧糸を巧みに操り、相手の凧を落とします。今年は84チームが参加しました。絶好の風が吹く中、縦横無尽に空中戦を繰り広げて観客を魅了しました。注目の100畳大凧揚げも大成功。縦14.4㍍、横12.5㍍の巨大な凧に書かれた「令和」の文字が、空高く舞い上がりました。

また、こどもの健やかな成長を願う初節句神事には、169組（うち、町内75組）の家族が参加。神事や記念撮影の後に行われた出世凧揚げでは、子どもたちの名前が書かれた凧が上がると、家族から感嘆の声が上がっていました。そのほかにも太鼓演奏や凧踊り、少年剣道大会など、さまざまな催しがあり、会場は終日にぎわいました。

高倉実行委員長は「いい風が吹く合戦日和。大勢の来場者に満足してもらってよかった」と喜びました。

来場者が赤と青の札を上げて勝敗を決める

小田の文化と交流を育んで20年――スバル20周年記念でNHKの公開収録

文化交流センタースバルの20周年を記念して、NHK番組「俳句王国がゆく」の公開収録が5月11日、同会場で行われました。地域の魅力を発見しながら俳句を楽しむ番組で、今回は小田地域の名物が題材。辛口批評で人気の夏井いつきさんやノッチさん、豊田エリーさんに加え、約400人の観覧者も収録を盛り上げました。番組は6月9日の午後2時30分から、Eテレで放送予定です。

山本さん（奥側中央）も泥だらけになってプレーした

歓声としぶきが上がる泥試合 泉谷の棚田でミニバレーボール大会

初めての「どろんこミニバレーボール大会」が5月12日、御祓地区の泉谷の棚田で開かれました。バレーボールのパナソニックパンサーズや元日本代表の山本隆弘さんと内子町との交流がきっかけで実現した同大会。4チーム・25人が参加し、泥だらけになって大会を盛り上げました。山本さんは「本気で楽しめた。非日常だけど、棚田に触れるいい機会になった」と声を弾ませました。

元気な若鮎に立川っ子の姿を重ねて――肱川漁協五城支部が「鮎の放流」

肱川漁協五城支部による鮎の放流が4月17日、中山川で行われました。立川小学校の校歌に「中山川よ水清く、若鮎走る」とあることから、その姿を見せたいと同支部が毎年開催。今年は児童と園児31人が約8,000匹の稚魚を放流しました。6年生の宮岡輝虎くんは「鮎が戻るよう、川を汚さないように心掛けたい。大きく育って元気に戻ってくるのが楽しみ」と笑顔で話しました。

「元気に育って」と声を掛けながら鮎を放流した

みんなで地球のことを考える日 「アースデイ in 内子」でエコを楽しむ

ごみを減らすエコな生活を目指そうと「アースデイ in 内子」（ECO-ZUKI内子他主催）が4月20日、内子自治センターで開かれました。環境活動団体の協力で、はがきやマイ箸づくりの体験など多数の催しがあり、多くの人でにぎわいました。ゼロ・ウェイストアカデミー理事長・坂野晶さんの持続可能な経済・地域活動の講演会もあり、参加者は地球にやさしい暮らしの一歩を踏み出しました。

カンナを使ってマイ箸づくりに挑戦

連綿と続く伝統を令和へ 川登で恒例の「川まつり・筏流し」

「第29回川まつり・筏流し」（川登自治会主催・山本哲昭自治会長）が4月28日、川登地区で開かれました。まず山本会長が「川まつりの歴史を令和の時代につなげたい」とあいさつし、60㍍の筏流しの実演や体験乗船、太鼓演奏などが行われました。写真愛好家の井上雄次さん＝松山市＝は「全国でも珍しい被写体。地域の人たちの思いも魅力」と夢中でシャッターを切っていました。

筏師の巧みな技で観客を魅了した

春の御祓地区を歩いて、食べて、楽しんで 「内子みそぎ自然浴ツアー」

「内子みそぎ自然浴ツアー」（同実行委員会主催）が4月28日、御祓地区で開かれました。まず参加者は「ダラリ集落」または「龍馬脱藩の道」を歩く2コースに分かれ、地元ガイドと一緒に約5㌔の散策。その後、約1,600本のシャクナゲが咲き誇る泉谷の棚田で、御祓豊年踊りや餅つき、棚田米のおにぎりなど、住民やスタッフのおもてなしを受けて、御祓の魅力を堪能していました。

御祓豊年おどりの「庄屋さん」が面白いと人気